

平成8年度

帰国研修員フォローアップチーム報告書

(農家生活水準向上女性指導者コース)

平成9年3月

LIBRARY



J 1155809 (5)

国際協力事業団

筑波国際センター

TBC

JR

96-62

はじめに

当事業団は、農村女性または農業改良普及員の指導及び研修の企画・実施している人々を対象として、女性による地域振興及び農村生活向上を目的とする集団コース「農家生活水準向上女性指導者」を1989年から実施し、これまでに25カ国96名の研修員を受け入れています。

本報告書は、帰国研修員に対するアフターケア業務の一環として、本研修に係る研修効果の確認と評価・研修ニーズの調査を目的に、インドネシア、マレーシアに1996年12月2日より13日まで派遣されたフォローアップ調査団の調査結果を取りまとめたものです。

本報告書が、当該分野における各国の現状や帰国研修員の活動状況についての理解を深め、今後研修を実施する上での参考となれば幸いです。

最後に、本調査団の派遣について多大なるご尽力をいただいた農林水産省、(社)農山漁村女性・生活活動支援協会及び関係者の方々に感謝いたします。

1997年3月

国際協力事業団
筑波国際センター
所長 橋本明彦



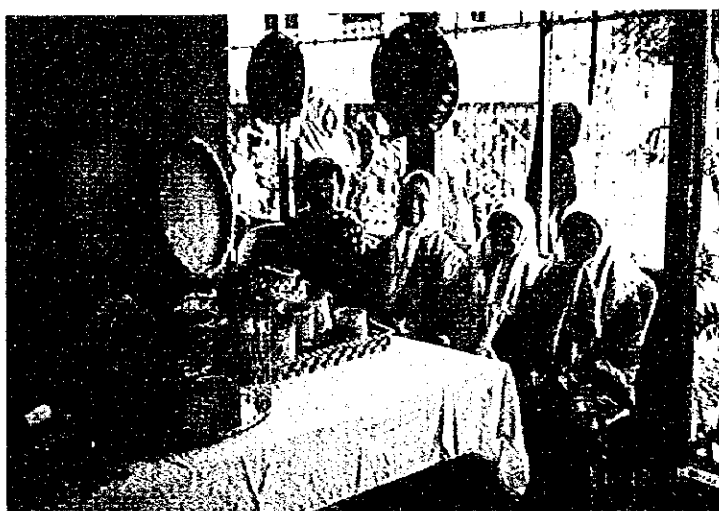
1155809 (5)

インドネシアの農村女性組織
(Cianjurにて)



マレーシアにおける農村女性活動
(セランゴール州にて)

マレーシアにおける
農村女性グループと活動の成果品
(ネグリセンピラン州にて)



目 次

I. 本コースの背景及び目的	1
II. 本調査団派遣の目的	1
III. 団員構成	2
IV. 調査日程	3
V. 主要面談者	4
VI. 調査結果要約	6
VII. 研修員候補者の募集・選考状況について	9
インドネシア	9
マレーシア	10
VIII. 当該国に対する他国の協力状況	12
IX. 当該国の女性問題への取り組みについて	14
インドネシア	14
マレーシア	16
X. 当該国の現状及び活動状況	18
インドネシア	18
マレーシア	20
XI. アンケート調査の分析	24
XII. 本コースの改善点について	29
XIII. 団長所見	35

別添資料

相手国側へ提出した英文調査報告	37
インドネシア	37
マレーシア	41
派遣前に送付した質問状	45
所属先用	45
帰国研修員用	51
インドネシア農業省PAK活動概要	56
インドネシアにおける女性問題への取り組み	76
マレーシア国家統一社会開発省女性局概要	84

I. 本コースの背景及び目的

(1) 現在までの経緯

現在、開発途上国の大半は農業国であり、人口の60～80%は農村に居住しているが、これら農村部に居住する農業者の多くは栄養状態の改善や食料の安定確保等の問題を抱えている。この中で農村女性は生活と生産の両面で重要な役割を担っているが、とりわけ生活面では旧来からの習慣を受け継ぎ、生活水準が低い農村ではその改善が課題となっている。近年では、開発途上国が経済開発を促進するためには、農村女性の能力と地位の向上を通じて農村の生活水準を高めることが必要であることが国際的にも認知されるに至っている。

本集団コース「農家生活水準向上女性指導者」は、1980年から1988年まで実施した「生活改善普及コース」を基に開発途上国のニーズを反映させ一層発展させた上で1989年より開始したものであり、1989年から1996年までに97名の研修員を受け入れてきた。本コースは、生活水準向上に係る知識・技術の紹介に重点を置き、生活問題を改善するための集団育成方法を紹介するなど、より実践的な研修を設定している。

(2) 目的

開発途上国の農村女性の指導訓練に携わる政府系職員（国、州、県）に対し、農村女性による地域振興を含めた農産物等地域諸資源の有効活用、人材の育成方法等農家生活水準向上に関して我が国が今日まで蓄積してきた知識・技術を提供することにより、各国の農村女性の指導訓練についての企画立案及び普及指導の効果的な推進に寄与することを目的とする。

II. 本調査団派遣の目的

本調査団は、本コース帰国研修員及びその所属先並びに関連機関等を訪問し、当該分野の現状の確認、問題点に対する専門的な見地からの助言等を実施するとともに、我が国で実施した研修の成果が現地においていかに活用され、どのような効果をもたらしているか調査・把握することによりコース評価のための資料とすることを主な目的とする。

また、対象国における当該分野の技術水準、その向上を妨げている要因及び解決方法、国としての本分野に対する取り組み、今後の研修ニーズ等を、付帯分野・周辺分野を含めて広く調査・把握し、本コースの改善、及び強化のための基礎情

報とすることも併せて目的とする。

Ⅲ. 団員構成

団長 総括 古田 由美子
(社) 農山漁村女性・生活活動支援協会 事業課 主事

団員 技術指導 佐藤 京子
農林水産省農産園芸局婦人・生活課 活動係長

団員 業務調整 天目石慎二郎
国際協力事業団筑波国際センター研修第2課

IV. 調査日程

日順	月日	曜日	訪問先
1	12/2	月	成田発 10:50 → ジャカルタ着 16:25 (JL725)
2	12/3	火	10:30 JICA事務所訪問、 13:30 垣矢、中東JICA個別専門家訪問 14:30 Agency for Agriculture of Education and Training, Ministry of Agriculture 表敬
3	12/4	水	10:00 農業省所属帰国研修員インタビュー 14:30 Ministry of Cooperative and Small Enterprises Development 表敬 (大川JICA個別専門家同席)
4	12/5	木	農村女性による収入創出活動 (P4K) の現場訪問 (Cianjur)
5	12/6	金	10:00 State Ministry for Roll of Women 表敬及び帰国研修員 インタビュー 14:00 日本大使館報告 15:00 JICA事務所報告
6	12/7	土	資料整理
7	12/8	日	ジャカルタ発12:45 → クアラルンプール着15:40 (GA832)
8	12/9	月	9:30 日本大使館表敬 10:20 JICA事務所訪問 11:20 Ministry of Rural Development 表敬 13:00 Ministry of Rural Development, Training Center 及び農村女性 の活動現場訪問
9	12/10	火	10:00 Ministry of Agriculture 表敬 12:00 農村女性活動 (KPW) 現場訪問
10	12/11	水	9:00 The Rubber Industry Smallholders Development Authority (RISDA)表敬 11:30 RISDA 女性グループ活動現場訪問
11	12/12	木	9:30 帰国研修員インタビュー 14:30 Ministry of National Unity and Social Development 表敬 16:30 JICA事務所報告
12	12/13	金	クアラルンプール発11:30 → 成田着19:00 (MH070)

IV. 主要面談者

インドネシア

インドネシア側

農業省 (Ministry of Agriculture)

Mr. Soedradjat Martaamidjaja

Director, Bureau of Agricultural Extension and Education,
Agency for Agriculture of Education and Training

協同組合・小企業開発省

(Ministry of Cooperative and Small Enterprises Development)

Mr. Dumpang Lumban Gaol

Head of Planning Bureau

女性の役割省 (State Ministry for Roll of Women)

Ms. Hj Sri Soesilo Rini Soerojo

Secretary of State Minister for Improvement of Family Welfare

帰国研修員

Ms. Nin Rismini Harry (1989、農業省)

Ms. Hermien Iswati (1990、協同組合・小企業開発省)

Ms. Wiwiek Hidajati (1993、農業省)

Ms. Ir Marwati (1994、農業省)

Ms. Ida Herawati (1995、農業省)

Ms. Siti Khadijah Nasution (1996、女性の役割省)

日本側

在インドネシア日本大使館

川本 憲一 一等書記官

JICAインドネシア事務所

諏訪 龍 所長

川端 岳郎 所員

個別派遣専門家

垣矢 直俊 (Ministry of Agricultureへ派遣)

中東 一 (Ministry of Agricultureへ派遣)

大川 雅央 (Ministry of Cooperative and Small Enterprises
Developmentへ派遣)

マレーシア

マレーシア側

農業省 (Ministry of Agriculture)

Mr. Koh Ah Kow

Director of Farmer's Division, Department of Agriculture

農村開発省 (Ministry of Rural Development)

Mr. Zainal Karib Abd Rahim

Director General of National Community Department

ゴム開発公社 (The Rubber Industry Smallholder Development Authority : RISDA)

Mr. Che Ahmad Che Daud

Assistant Director, Extension Division

国家統一・社会開発省女性局

(Women's Affairs Division,

Ministry of National Unity and Community Development)

Ms. Hajah Rubiah Hajiabo Rahman

Director of Women's Affairs Division

帰国研修員

Ms. Azizah Md Jan (1990、農業省)

Ms. Kamariah Bt Kadiman (1990、ゴム開発公社)

Ms. Hasiyah Bt Harun

(1993、国土開発公社

(Federal Land Development Authority : FELDA))

Ms. Noor Azida Bt Alias (1994、農業省)

Ms. Rosfazidah Bt Ishak (1995、農村開発省)

Ms. Sawiah Bt Hassan (1996、農村開発省)

日本側

在マレーシア日本大使館

上田 守 二等書記官

JICAマレーシア事務所

西牧 隆壮 所長

佐藤 映二 次長

山田 好二 次長

西田 基行 所員

VI. 調査結果要約

本調査団は、インドネシア、マレーシア滞在中、相手国側政府関係者との意見交換、帰国研修員との聞き取り調査の実施及び農村女性の活動現場の訪問等を通じ、多くの有意義な知見、情報、本コースに対するニーズ等を得た。各々の国において得られた調査結果及びそれらを基に帰国後関係者の中で検討した結果は次のとおりである。

1. インドネシア

- (1) 本コースの帰国研修員9名のうち、6名と面会し聞き取り調査を行なう機会を得た（面会できなかった3名のうち、2名は留学中のため、1名は所属先の昇進試験と重なったため）。本調査の結果、各研修員とも本コースの研修内容には概ね満足していること、また、本コースの研修を通じて得た知識を、専門技術員、農業普及員等を対象とする研修の開催及びテキスト、パンフレットの作成、そしてその配布等を通じ一般に広く普及させるよう積極的に努めていることが確認された。
- (2) 本コースへの要望として、多くの帰国研修員より講義が多くまた長いとの意見が出された。また、講義の実施方法についても、全体的に講師からの一方的な知識提供型で実施されるものが多く、研修員が積極的に参加できる講義が少ないとの意見がだされた。したがって、本件については、現在まで講義により実施されてきた研修のうち可能なものについては実習または見学等に切り替えることとし、また、講義の実施方法についても、ロールプレイ、ディスカッションの導入等、研修員が積極的に取り組める講義形式へ改善するよう努めていくこととする。
- (3) 研修に加えるべき内容として、農産物およびその加工品のパッキングの方法に関する希望がだされた。農産物等のパッキングについては、一般的に、保存、貯蔵を目的とするもの及び商品価値を高めるために行なうもの等があるが、本調査の結果、同国の場合、上記双方ともに要望が高いことが確認された。本調査中に農産物の加工に取り組んでいる女性グループを訪問する機会を得たが、聞き取り調査の結果、パッケージの有無により価格に違いがあることが確認され、パッキングの方法を学ぶことは日常の食生活や農村女性の収入創出活動において非常に有効であることが分かった。したがって、次回より、本コースの研修においてパッキングに関する内容を充実させることとした。

- (4) 同国では、農村グループ、特に女性のグループの指導において、近年、WID及びジェンダーに関する知識が急速に求められるようになってきていることが分かった。このことはインドネシアに限らず他の国においても同様であろう。したがって、本コースでは現在も本分野に関して基礎的な情報は提供しているものの、今後は日本、または諸外国の事例等応用面についてもカリキュラムを設定していくこととする。
- (5) 本コースでは、主な参加対象者として地域レベルにおいて実際に農村女性に対する生活改善活動に携わっている人を想定して研修内容を設定していたが、現在までに参加した研修員の中には中央省庁の行政官や州レベルの専門技術員等の参加も数多く見られ、このことは本調査実施前においては今後の改善点であると考えていた。しかしながら、今回の調査の結果、同国の場合、農業改良普及員等農村地域の生活改善活動に携わっている人の多くは研修参加の際必要となる十分な語学力を有していないこと、また、上記のような実務に携わっている人よりも彼らを指導する立場にある人のほうが研修の成果の波及する範囲は広く、本分野の活動を推進する上でより有効であろうとの感想を持った。したがって、本調査の結果を踏まえ、次回より、本コースの主な対象者は中央省庁の行政官や州レベルの専門技術員等大局的な視点に立ち本分野の活動に携わることのできる人とする事とする。

2. マレーシア

- (1) 帰国研修員からの聞き取り調査及び質問状への回答状況の確認の結果、各研修員とも本コースの研修内容には概ね満足していることが確認された。また、本コースの研修を通じて得た知識及び技術の普及についても、農村における女性活動グループへの指導、日本での研修の成果に関する記事の機関誌への連載等を通じ各研修員とも積極的に行なわれていることが確認された。
- (2) 本コースでは、マレーシアから現在までに農業省、農村開発省、ゴム開発公社、国家統一社会開発省及び国土開発公社より計7名の研修員を受け入れてきた。本コースの参加対象者は、農業普及員への指導及び活動計画の企画・実施を通じて農村地域の生活水準の向上及び農村女性の活動の支援に取り組んでいる人であることから、本コースへの参加者は実際に農村女性の指導に関する業務に携わっている人が望ましい。したがって、今後の本コースの参加者としては、農業省、地域開発省の本省において国レベルの、または各州にて州レベルの計画の立案及び農村女性や農業普及員への指導に携わっている人が適任であると考えられる。なお、国家統一社会開発省については、女

性の地位向上活動に関する部署をもつ機関であるものの、主にこれら活動をコーディネートする機関であり直接活動を実施する機関ではないことから、各候補者の職務にもよるが、農業省及び農村開発省からの候補者を優先すべきであろうとの感想をもった。

- (3) 本コースへの要望として、多くの帰国研修員より講義が多いとの意見が出された。また、講義の実施方法についても、全体的に講師からの一方的な知識提供型で実施されるものが多く研修員が積極的に参加できる講義が少ないこと、通訳を介して行なう講義の割合が約7割と極めて高く講義の内容が直接理解できないものが多いことについて不満が認められた。したがって、本件については、可能な範囲で実習または見学等に切り替え、また、講義の実施方法についても、ビデオ、スライドの使用、ロールプレイ、ディスカッションの導入、さらに、英語による講義を増やす等研修員が積極的に取り組める講義形式へ改善するよう努めていくこととなった。
- (4) 本研修へ新たに加えるべきものとして、農作物の加工方法及び手工芸品の紹介について要望がだされた。しかしながら、これらに関する具体的な技術紹介の実施については、各国により環境、状況等が異なり、全ての国に対し実施可能な技術を紹介するのは極めて困難であること、また、本コースの対象者は、普及活動に携わっている人への指導、または研修や活動計画の作成に取り組んでいる人であることから、具体的な技術の指導よりも考え方を理解することのほうが方がより適切であろう。したがって、これら要望への対応については、農産物の付加価値を高めることにより農村女性が収入を創出することの概念及び考え方に関する講義、現地研修をより充実させることを通じ各研修員がこれら活動の意義を十分理解できるようカリキュラムを組み直すこととし、各国への応用については、研修員各人が当該国の状況を十分考慮の上、実施可能な計画を作成するよう促すこととする。

さらに、各研修員より、活動グループの強化、グループにおける会計管理、女性指導者の育成方法等に関する研修の希望もだされた。これらについては、農村地域の活動、特に女性グループによる収入創出活動の実施の際不可欠となるものであることから、今後これらの事項についても研修内容を強化していくこととする。

- (5) 今回の調査の結果、マレーシアでは農村女性グループの収入創出活動が比較的進んでいることが分かり、成功している活動事例も多数確認された。したがって、今後は成功した農村女性グループは収入創出活動を進めるだけでなく、リーダーとして村落における活動の企画運営等地域全体の発展に寄与する一歩進んだ活動の実施について期待する。

Ⅶ. 研修員候補者の募集・選考状況について

インドネシア、マレーシアにおいて、研修員候補者の募集・選考は次のとおり行われていることが確認された。

1. インドネシア

(1) General Information の送付について

本コースのGeneral Informationは、まず、JICAインドネシア事務所より内閣官房（Secretary of Cabinet）へ送付され、その後、同局より関係省庁へ一括して送付されていることが確認された。本コースが開始された1989年から現在までの本コースのGIの送付先及び参加研修員の所属先は次のとおりである。

年度	配付先	参加した研修員の所属先
1989	女性の役割省 農業省	農業省
1990	女性の役割省 農業省	協同組合・小企業開発省
1991	女性の役割省 Partnership in Development Forum (インドネシアのNGO)	農業省
1992	農業省	農業省
1993	農業省	農業省
1994	農業省	農業省
1995	内務省	農業省
1996	女性の役割省 教育・文化省	女性の役割省 教育文化省

一部にGIの送付先と参加した研修員の所属先に食い違いが見られるが（1990、1991、1995年）、これらは農業省及び協同組合・小企業開発省が非公式にGIを入手し、応募した結果と想像される。

従来、GIの送付先についてはJICAインドネシア事務所より内閣官房に対し指示を出していたとのことであったが、3年ほど前、同局よりインドネシア側で独自に送付したい旨申し入れがあったことから現在は特に指示を出していない

とのことであった。内閣官房でのGIの送付先の選定は、本コースの目的及びカリキュラムの内容を基に決定しており、また、国内には政府機関、非政府機関を含めて本コースへの参加が適当と考えられる機関が複数存在することから、受入可能人数は1名であるものの現在までに複数の機関へGIを送付してきたとのことであった。ただし、本コースのGIは各年度ともにそれほど広くは配布されておらず、本調査時には、女性の役割省等より毎年配布願う旨要望が出された。

(2) 候補者の選考方法について

候補者の選考は、各省及び内閣官房において次のとおり行われていることが確認された。

まず、各省では、本コースのGIの内容と該当者の現在の現在の業務内容、職歴、学歴、専門分野、資格等を比較の上決定していることが分かった。ただし、十分な英語力を有することを選考の前提としているとのことであった。

つぎに、内閣官房では、各省より提出されたApplication Formを次の基準で再審査し、最終的に参加候補者を決定するとのことであった。ただし、この基準は一般的な参加候補者の選考基準であり、本コースにだけ適用しているものではない。

1. 他国の同様な研修に既に応募しているかどうか。2重の応募は認めていないことから、既に応募している場合には優先順位は低くなる。
2. 応募に際し必要となる書類が全てそろっているか。
3. 情報が豊富でかつレベルの高い英語でカントリーレポートが書かれているか。
4. ジャワ島以外に居住している人、または女性を優先する。

2. マレーシア

マレーシアでは、JICAの研修員受入事業は人事院（Public Service Department：SPD）が窓口となっている。今回、調査日程の都合上人事院を訪問することはできなかったが、別途、人事院担当者と面会する機会を得、研修員候補者の一般的な募集・選考方法について口頭にて確認した。ただし、人事院で取り扱っている研修コースは非常に多いことから、今回担当者より確認できたのは同国における一般的な募集・選考方法が確認できたに過ぎない。

上記による人事院担当者からの口頭による調査及び帰国研修員所属先からの聞き取り調査の結果、マレーシアにおける参加候補者の募集・選考方法は概ね

次のとおりであることが確認された。

(1) General Information の配付先について

一般的に、人事院より関係すると思われる機関に対してGIを配布しているとのことであった。しかしながら、帰国研修員からの聞き取り調査の結果、近年はGIの配布は農業省、または農村開発省に限られているようであり、かつて研修員を受け入れた実績のあるゴム開発公社及び国土開発公社へは送付されていないようであった。なお、詳細な配付先については確認できなかった。

(2) 候補者の選考方法

まず、GIを配布された関係省庁において選考が行われるが、その際の主な選考基準は、一般的に、候補者の現在の業務内容、職歴、学歴及びコースの目的に置いていることが分かった。その後、人事院において応募書類の審査を行うことになるが、人事院では、海外への留学、または、電気工学等非常に重要かつ競争率の高い分野の研修コースを除き面接試験は行っていないとのことであった。また、研修員からの聞き取り調査を通じ、マレーシア国政府は対外的にも十分な能力を有すると認められる人材に限り応募を認める傾向にあり、したがって、大学を卒業していない人々のJICA研修コースへの応募は極めて難しいことがわかった。

Ⅷ. 当該国に対する他国の協力状況

1. インドネシア

インドネシアに対する当該分野に対する協力は諸外国及び国際機関等により活発に行われていることが確認された。主な活動は次のとおりである。ただし、小規模のものも含めると他にも多数存在すると思われる。

国または組織名	プロジェクト名	期間
New Zealand	Women in Development	不明
Swiss	Management Consultancy and Training cooperatives/KUD'S AND Women's groups-ILO/Swiss Project ※KUD: 村落協同組合	I 1990-1993 II 1994-1995
CIDA	Women's Support Project Phase II	1995-2000
〃	Women in Development Programme	I 1990-1993 II 1994-1995
アジア開発銀行	Institutional Strengthening of the State Ministry of Roll of Women	不明
UNICEF	Enhancing the roll of Women in Comprehensive Child Development	不明
UNDP	Pilot Gender-Representative Development Planning	不明
UNIFEM	Strengthening Gender & Development Study	不明
CEC	Women in Development Programme	不明

ただし、各協力の詳細な内容は確認できなかった。

2. マレーシア

マレーシアにおける諸外国の援助の動向について国家統一社会開発省女性局にて口頭で確認したところ、CIDA、アジア開発銀行、国連の諸機関などからの援助、または共同プログラムが存在することが確認された。

例えば、CIDAで実施されているものは、“Women's Initiative's Fund (WIF)” と呼ばれ、女性の貢献度を高める具体的に採算性のある女性の起業活動に対し資金を提供するものである。提供される資金は、一般的に各事業につき25,00-50,000RM（マレーシアリングット）とされ、返済する必要はないとのことであった。

なお、アジア開発銀行、国連の諸機関により実施されているプロジェクトの詳細な活動内容については確認できなかった。

IX. 当該国の女性問題への取り組みについて

1. インドネシア

インドネシアでは、女性と開発に関する事業は女性の役割省（State Ministry for Roll of Women）が一括して調整業務を行っており、実施については当該分野を担う各省庁が行っている。現在、同国は第6次国家開発5カ年計画を実施しており、その中に女性の役割に関する項目も含まれている。同計画では、本分野について、

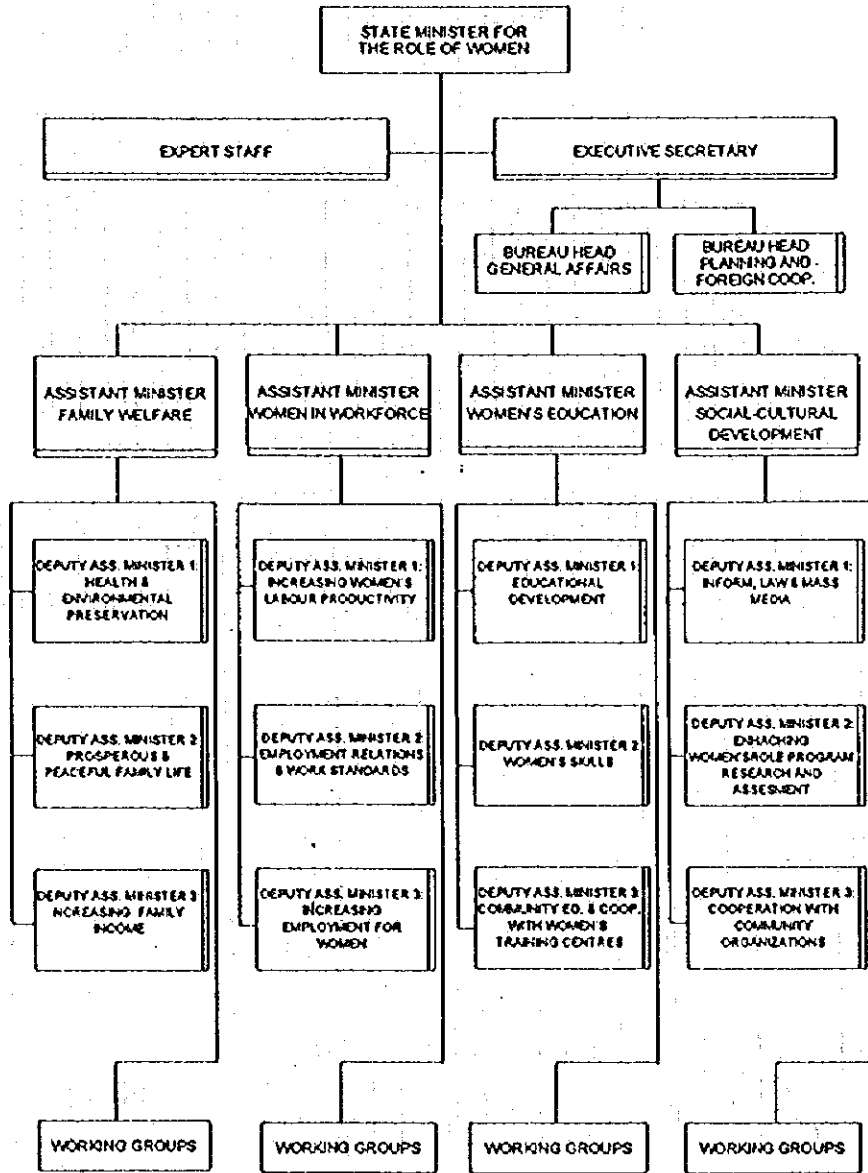
- ・女性の地位の向上及び女性のための社会文化的環境の支援
- ・コミュニティ、州、国における女性の役割の向上

を掲げ、具体的には次の事項を目標としている。

- ・学校教育
- ・学校以外での教育
- ・健康及び栄養状態の改善
- ・女性労働者のレベル及び生産性の向上
- ・家庭における女性の役割の向上及びコミュニティにおける社会経済問題の解決のための役割の向上
- ・社会文化的環境の改善・女性問題を扱う研究、その評価及び女性組織のレベルの向上

同省は、女性の地位の改善を目的とする計画の立案及び活動の調整、支援を目的に1978年にその前身となる組織が設立され、1983年に現在の組織が確立した。上述のとおり、同省では当該分野の事業の調整業務を行っており、プログラムの実施は各分野を担当する省が実施している。また、ほとんどの省において女性の地位の改善に関するプログラムが策定されている。さらに、女性の役割省には4人のAssistant Minister（Assistant Minister of Family Welfare, Women Workers, Education of the Roll of Women, Development of the Socio-Cultural Environment）がおり、各Assistant Ministerは各分野のプログラムを調整する任務を負っている。女性の役割省には当該分野に精通した専門家がおり、政策の検討、プログラムの立案、支援等に関し助言を行っている。さらに、Executive Secretaryが各Assistant Ministerの調整業務を担っている。そして、女性の役割省には、当該分野を担当する省、Family Welfare Movement (PKK) 及び国レベルの女性組織の代表者より構成されるWorking Groupがあり、各Working Groupは当該分野のプログラムの立案からモニタリング、評価までを行っている。

**ORGANIZATIONAL STRUCTURE
THE OFFICE OF THE STATE MINISTER FOR THE ROLE OF WOMEN**



NOTE :

- Echelon I
- Echelon II

2. マレーシア

マレーシアでは、女性と開発に関する事業は国家統一者開発省女性局 (Women's Affair Division, Ministry of National Unity and Social Development : HAWA) が一括して調整業務を担っており、実施は当該分野を担う各省が行っている。

同国では、1992年に「女性のための国家計画」が策定され、本計画において、資源の入手、情報への接触等男女間であらゆる面について均等にすること、そして、現在同国が直面している問題の解決、国の平和、より一層繁栄のため、あらゆる分野において女性の持つ能力、ニーズに対する差別をなくすことなどが唱われており、女性の地位向上に関する取り組みが積極的に行われていることが分かる。

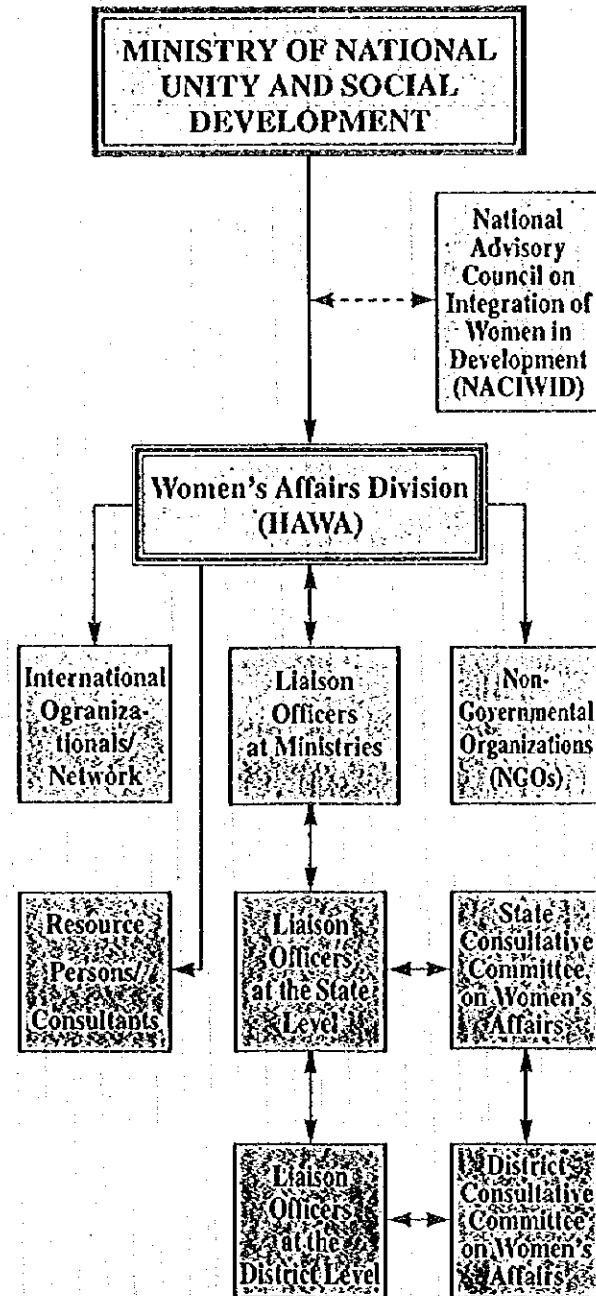
国家統一社会開発省女性局は、1976年から1985年が「国連女性の十年」とされていたことを受け、1983年に前身となる組織が設立された。当初は総理府内の一部局とされていたが、1990年の組織改編時に国家統一社会開発省に移管された。同局の設立の目的は、国家開発の際の女性の参加の促進、男女間のあらゆる事柄への機会の均等を通じ女性への差別をなくすことにある。同省の業務内容は次のとおりである。

- ・女性に関する政策、プロジェクトの実施状況のモニタリング
- ・研修やセミナーの開催
- ・研究活動への支援
- ・女性問題を扱っている国際的な機関との連携
- ・情報の提供
- ・女性問題を統括する組織・女性組織の活動の調整及びモニタリング

同局では業務を効率的に実施するため、1986年に関係省庁の女性担当部局に liaison officers を任命し、また、1989年には州または地域レベルにおいても liaison officers を任命するに至った。国レベル、州レベル及び地域レベルの liaison officers は各分野を担当している省から入手した情報を提供し連携を強化している。そして、liaison officers は各省の政策、実施しているプログラムの効果を監督する業務も担っている。

また、同局は、National Advisory Council for the Integration of Women in Development (NACIWID) と関係を取り業務を実施している。NACIWID は1976年に設立され、政府組織、非政府組織の代表により構成されている。NACIWID は女性組織に対し国家開発への参加に対する提言を与えるとともに、女性に関する法律の制定、プログラムの策定にも関与している。さらに、1992年には、州、または地域レベルにおいて女性問題検討委員会が設立された。同委員会は州または地域レベルの著名な女性指導者が議長を務め、メンバーは、州、地域レベルともに行政組織、NGO及び民間の代表者より構成されている。同委員会では、草の根レベルでの女性の役割及び貢献に対する差別の撤廃の問題への対応について議論されている。

NATIONAL MACHINERIES FOR ADVANCEMENT OF WOMEN IN MALAYSIA



X. 当該国の現状及び活動状況

1. インドネシア

(1) 現状

- 1) インドネシアにおける実質経済成長率は、毎年順調に伸びているが、農林水産業の伸び率は低く、GDPに占める割合も低下しつつあり、93年には17%台まで低下している。
- 2) インドネシアの部門別就業人口は農林水産業が50.6%を占めており、同国では農林水産業が重要な役割を果たしている。しかし、これをある程度恒常的な労働に従事しているとみられる週35時間以上の労働者についてみると、農林水産業では1776万人となり、農林水産業の割合が減少する。就業人口に占める農業に従事する女性の割合は、1980年に比べて減っているものの、1990年には48.9%を占めている。
- 3) 農家の経営規模はエステート栽培農家を除き、平均的には極めて零細である。農業の経営状況形態は、ジャワ島を中心とする小規模零細な農家経営とスマトラ島などの外領を中心とするエステート（オイルパーム、ゴム、コーヒー、茶、砂糖等の商品作物栽培）農業に大別される。前者は経営規模が0.5ha程度の個人経営が多く、後者はオランダ統治時代の「プランテーション」農業に由来している。
- 4) インドネシアの農業は零細であるため自給自足的経営が多い。このため、現金収入は換金作物販売、労賃、出稼ぎ家族からの送金等に頼っているものと考えられる。
- 5) インドネシアの女性の識字指数、就学指数は近年向上しているものの、男性に比べて低い。
- 6) インドネシアにおける食料消費については、現在、ほとんどの部分を穀類、特に米が占めており、肉類や牛乳・乳製品の消費は極端に低い。

(2) 問題点

- 1) 農林水産業は他産業に比べて収入低く、また、その差が拡大傾向にある。食品加工等による収入創出活動が望まれている。
- 2) 食料消費が穀類に偏っているため、栄養に偏りがある。
- 3) 農家の女性の教育水準や技術水準が低いため、女性の農業所得が低い。

(3) 活動状況及び活動プログラム

農家の生活の質の向上のため、a) 食品加工等による女性の収入創出活動、
b) 農家の食事メニューの改善、の活動を実施している。実施しているのは、農業省、協同組合・小企業省である。

1) 農業省

①食料栄養多様化プログラム

質の良い栄養バランスのとれた食事の啓発を通じ、食料消費の多様化、屋敷地の活用（家庭菜園）による栄養に富んだ多種の食品の供給を目指している。

なお、本プログラムは保健省と食糧調達庁（Bulog）サブセクターの栄養改善プログラムにおける家族栄養改善事業（UPGK）をサポートしている。

②P4K（下層農民と小作農のための収入確保プロジェクト）

1979年に始まったプロジェクト。フェーズⅢが1989年に始まり、1996年に終了する。1997年からフェーズⅣがスタートする。

このプロジェクトは、一人当たりの年収が米に換算して320kg以下の小規模農民（小作農、農場労働者、小規模漁民、下層農民など）のための収入確保活動である。このプロジェクトには、農業省教育訓練庁、UNDP、IFADが関連している。現在、このプロジェクトは18の州（全部で27州ある）で実施され、1994年8月現在で28,875の小規模農民のグループが設立され、22,469グループが貸付金を受けている。設立されたグループのうち、37%が農家女性のグループである。また、2,178人の普及員及び7,956人の村のリーダーがこのプロジェクトに関与している。このプロジェクトは、特に農村部の女性に重点を置きながら、小規模農民の家族の構成員のすべてを対象にしている。P4Kプロジェクトの主な目的は、次の2つである。a) 小規模農民の収入を貧困レベルから引き上げて、よりよい生活条件を獲得できるようにする、b) 小規模農民が新しい変革により一層適応できるような姿勢を身につけられるよう支援する。

本調査にて、Cianjurの女性グループ「DEWI SARTIKA (Women's Hero)」のスナック菓子を中心とする食品加工活動を視察した。この女性グループは10名のグループ3つからなり、グループ内ではリーダー、会計等役割分担がなされている。加工品の原料は市場から購入しており、彼ら自身で生産しているわけではない。原料の加工は加工場ではなく、個人の家で簡易器具を用いて行っている。販売先は近くのマーケットや注文販売が主となっている。

③農業普及センターを通じた指導

普及員はP4Kにも関わっているが、それ以外に農家や漁家の婦人に対し、householdに関する知識や技術を指導している。具体的には、食事メニュー、家族の健康、環境や家庭管理、家族教育、結婚に関する法律と規則などである。

2) 協同組合・小企業省

村落協同組合（KUD）は、地域開発と生活の向上を目的として、地域住民が設立する農村地域では唯一の立法地位を持った経済体である。出資した住民の任意加盟により、平均8村落当たり1KUDが設立され、1995年では9,157のKUDが登録されている。P4Kのグループよりもレベルが高く、P4Kで成功したグループが即KUDになれるわけではない。KUDには女性も加盟している。研修生は、女性の役割省のプロジェクトを27州にいるサブリーダー（女性26名、男性1名）に伝達する仕事をしている。

2. マレーシア

(1) 現状

- 1) マレーシアにおける農林水産業の国民経済に占める割合は、工業化の進展、石油資源の開発など非農業部門の発展に伴い年々低下傾向にあるが、農林水産業は国民経済の中で依然重要な地位を占めている。
- 2) 部門別雇用数は農林水産業部門の雇用数が一番高いが、1989年以降は減少傾向にある。農業人口が全労働人口に占める割合は、1992年で2,246人で全労働人口の30%を占める。
女性の農業人口が女性の労働人口に占める割合は1990年で28%であり、農業人口に占める女性の割合は約30%である。
- 3) 農林水産業は国民経済の中で重要な位置を占めているものの、産業別GDP（要素費用）で比較すると、工業など他産業に比べて低い。また、同じ農業の中でも生産指数で見ると1979～1981年時点と比較して低下しているものもある。
- 4) マレーシアの主要農産物として天然ゴム、パームオイルが挙げられる。ゴムは、国際価格の低迷、農園労働者の不足などから栽培面積は減少しているが、生産量は栽培技術の向上により横ばい状況にある。
- 5) マレーシアでは女性の就学率は近年向上しているものの、男性に比べて依然低い。

2) 問題点

農林水産業は他産業に比べて収入低く、また、その差が拡大傾向にある。マレーシアの中心的農産物のゴム産業の伸び悩みもあり、食品加工や未利用資源の利用等による収入創出活動が望まれている。

(3) 活動状況及び活動プログラム

農家の生活の質の向上のため、食品加工やハンディクラフト等による女性の収入創出活動に複数の省庁が実施している。具体的には、農村開発省(KEMAS)、農業省農業局(DOA)、ゴム産業小規模自作農開発公社(RISDA)、国土開発公社(FELDA)である。

1) 農村開発省(KEMAS)

農村の女性グループを対象に、家庭の収入を上げるため、織物、縫製、刺繍等の技術訓練を行っている。指導者は"Supervisor"と呼ばれており、KEMASの嘱託職員である(任期は2年で更新は可能)。この"Supervisor"は、KEMASの技術訓練を受け、その技術が向上した農村女性で、KEMASの試験に受かった人である。KEMASは、女性たちが縫製等の活動を行うためのコミュニティセンターの建設やミシン等の導入も援助している。

KEMASは技術訓練の他に、a) トレーニングセンターにおける幼児教育(幼稚園教諭の育成、再教育)、b) イスラム教育、c) 家政学の教育、d) コミュニティの図書館整備、e) 村落の自立プログラム、f) 読み書きの教育等を実施している。このうち、家政学の教育は、a) コミュニティにおける女性の役割の教育、b) 家庭管理の教育、c) 栄養に関する教育等を実施している。

本調査において、セランゴール州の農村女性グループの活動を視察した。このグループは主に縫製やフラワーアレンジメントを行っていた。農業省のKPW(Women's Agriculture Extension Groups)のように組織だった活動は行っておらず、個人の所得向上だけを目的に活動を行っている。彼女たち平均収入は1,000~1,500MR/月で、多い人は2,000MR/月の収入を得ている。

2) 農業省農業局(DOA)

①PKT(Farm Family Development)

1960年代から始まったERT(Home Economics)を発展させ、1978年から実施しているプログラムであり、1984年にはDOAの普及事業によって実施されるようになった。このプログラムは、KPW(Women's Agriculture Extension Groups)によって実行されている。

PKTは、コミュニティ開発と農家の生活の質の向上を目的として農業をベ-

スにした小規模ビジネス（食品加工や手工芸等）を実施するプログラムである。

KPWは、a) 村落レベルで農家の女性に企画の機会を与える、b) 女性が研修を受けるための受け皿、c) グループの自助努力による家庭や農業に関する経営者としての技術の向上、d) コミュニティ開発のためのリーダーシップ能力の向上を目的に結成された。KPWには女性の農業者又は農家の女性ならば誰でも加入できる。現在、KPWは全国で33,000あり、2,464の収入創出プログラムを実施している。収入創出プログラムの大部分は、スナック菓子、ソース、ジュースなどの食品加工である。収入創出活動だけでなく、オイルパーム、ココア、パイナップルなどの農業生産にも関わっており、1994年にはこれらすべてのプロジェクトで500万RMの取引高がある。

本調査において、ネグリセンビラン州のKPWの食品加工活動を視察した。このグループは1980年に発足し、現在は35名で活動を実施している。主な活動は、お菓子作り、野菜栽培、養鶏及び手工芸であり、会計、書記などグループ内では役割分担がなされている。また、グループ内には、お菓子委員会、野菜委員会など5つの委員会があり、それぞれの委員会にマーケティングオフィサーがおり、販売先を開拓している。グループ員は1MR/月の会費を納めており、売上金の10%程度をKPWの基金に納めている。このグループの活動拠点となっている建物はリーダー宅の庭にあり、これは農業省により建てられたものである。この建物の完成後、グループが活動を開始した後KEMAS等がこのグループの支援を始めた。売り上げは、グループ活動で100MR/月、個人活動で400MR/月程度である。

また、別のグループではマレイシアにおける一般的な朝食であるロティーチャナイを生産していた。その他、個人によるスナック菓子の加工活動を視察した。

②農業トレーニングセンター

a) leadership development, b) food processing, c) handicraft, d) consumer education, e) food nutrition, f) family development を目的として設立されている。訓練だけでなく、加工品の研究開発も実施している。

3) ゴム開発公社 (RISDA)

ゴム栽培農家の女性の収入創出活動を支援することにより、小規模ゴム栽培農家の生活の質の向上を図っている。具体的には、手工芸（フラワーアレンジメント）、食品加工（トマトソース、チリソースなど）、ウェディングセレモニー、ゴムの葉を利用したフラワーづくりなどである。

収入創出活動をしているグループ数は、1996年6月現在で157であり（表2-

12)、収入創出活動のタイプは表2-13のとおりである。スナック食品づくりや縫製に取り組んでいるグループが多い。収入創出活動を行っているグループに対する指導者は"Supervisor"と呼ばれているが、KEMASの"Supervisor"とは違う。RISDAの"Supervisor"はゴム栽培農家の出身者である。

本調査にて、セラングール州で加工物の直売所を視察した。個々では直売とともに展示も行っており、主なものはフラワーアレンジメント、縫製、ウェディングセレモニーに用いるものであった。フラワーアレンジメントの材料はゴムの葉、魚の鱗、包装用ビニールテープ、布などであった。ここでは15名の女性が活動を行っており、主な販売先は直売所周辺またはクアラランプールとのことであった。

4) 国土開発公社 (FELDA)

FELDAの基本的な役割は、国土を開発してゴム園、パームヤシ園、サトウキビ園を開くことである。土地を持たない地方の人々を入植させ、入植者の生活の質を向上させることを目指している。

女性に関するプロジェクトに収入創出活動のプロジェクトがあり、スナック食品プロジェクトと縫製プロジェクトがある。スナック食品プロジェクトは、バナナチップやタピオカチップづくりを、縫製プロジェクトでは、テーブルクロス、テーブルセンター、刺繍のスカーフ等を生産している。縫製プロジェクトでは、KEMASから講師を派遣してもらって指導している。

XI. アンケート調査の分析

本調査団の派遣に先立ち、帰国研修員及びその所属先に質問状を送付した。回収された質問状の主な回答結果は次のとおり。

1. 現在の問題点及びプログラムの策定について

(1) インドネシア

1) 現在の農村生活に関する問題点について

- ・インドネシアにおいても、日本と同様に若い世代の農家離れが進んでいること。これは、ジャカルタ等大都市に行けば容易に収入が得られるため
- ・農村地域の貧しい人たちの収入が少ないこと
- ・農村地域の栄養が偏っていること

2) これら問題点に対しどのような対策をとっているか

- ・農村のインフラストラクチャーを整備する
- ・コミュニティリーダー及び地域リーダーと連携を取りつつ活動を進めていく
- ・小農や女性に対し収入創出活動を促す
- ・家庭菜園を用いて多様な野菜作りを促すことにより栄養改善に努める

3) プログラムを策定・実施する上での問題となる点について

- ・各州により社会経済状況、人種、気候、農業形態及び文化等が異なることから、各地域に対し一様なプログラムを策定しづらい
- ・計画の実行にあたり、対象者の教育水準が一様でないため計画について十分な理解を得るのが難しい

(2) マレーシア

1) 現在の農村生活に関する問題点について

- ・農村地域の若い人々の農家離れが進んだことによる農村地域の高齢化
- ・農村地域の収入が低く、また、生活水準も低いこと

2) これら問題点に対しどのような対策をとっているか

- ・教育の充実
- ・小規模の産業の開発
- ・協同組合を通じての農作物の買い取りシステムの確立

3) プログラムを策定・実施する上での問題点は

- ・複数の組織が重複した地域で類似の活動を実施しているケースがある
- ・予算の制限があり、十分な活動ができない
- ・活動を実施するにあたり、女性の支援が得られづらい

2. 研修の成果の活用について

(1) インドネシア

1) 帰国後、研修の成果をどのように広めたか

- ・日本の農村の発展過程について報告し、インドネシアでも適用できるか議論を行った
- ・研修の成果を普及組織、女性を含む農村グループへの政策の改善に生かした
- ・農村女性に対するプロジェクトを策定し、直接実施に携わる普及員に対し研修を行った

2) 研修の成果のうち、現在の業務に活用していることは

- ・リーダー及び農村グループの育成方法について
- ・現地研修で学んだ農業への取り組みについて
- ・農協の役割、農業開発、ジェンダー、農村における生活水準の向上への取り組み方について
- ・農村女性グループのための普及用資料の準備の方法について

(2) マレーシア

1) 帰国後、研修の成果をどのように広めたか

- ・日本の農村女性の活動のうち成功した事例について機関誌に投稿した
- ・グループ診断表を用いて農村女性グループの状況及びその改善方法について分析した
- ・上司、同僚及び普及員との間で議論の場を持った

- 2) 研修の成果のうち、現在の業務に活用していることは
 - ・家計簿とその管理、生活環境の衛生管理に関する知識
 - ・普及計画の策定方法について
 - ・グループ及び農村女性リーダーの育成方法について
 - ・栄養改善、生活設計に関する知識について

3. 研修コースの改善について

(1) インドネシア

1) 期間について

概ね現在の期間は問題ないようであったが、やや長い、または、短いとの意見も出された。

それぞれの理由として、長い場合には、自らの抱えている業務が停滞してしまうことを、短い場合には、日本の農村生活についてより多く、また深く理解するためにホームステイの期間及び回数（現在は4泊5日の予定で1回実施）を増やして欲しいとのことが挙げられていた。

2) 研修の実施方法について

講義が多く、また、長いとの意見が多数出された（現在、研修の約2/3が講義にて実施されている）。また、講義のうち約70%が通訳を介して実施されており、講義の内容が直接理解できない点についても指摘を受けた。さらに、現地研修（研修旅行を含む）が短いとの意見も多数出された（4泊5日のホームステイを含む10日間の現地研修を1回、日帰りの現地研修を3回実施）。

3) 研修に加えて欲しい項目について

- ・女性の収入創出に関する技術について
- ・農村地域の栄養改善について
- ・日本における農業共同組合のシステムについて
- ・農村地域の環境整備について
- ・ジェンダーについて

4) 本研修に対する改善点及び提言

講義を減らし、また、英語による講義を増やして欲しいとの意見が多数出された。講義の実施方法についても、ロールプレイ、討論、またはゲーム形式

等方法について検討して欲しいとの意見が出された。また、現地研修については、日本の農村生活を十分に理解するために、ホームステイを期間を1週間として2回程度実施して欲しいとの意見が出された。研修内容については、特に、ジェンダーやWIDに関する希望が出された。

(2) マレーシア

1) 期間について

適切であるとの意見が多く見られたが、やや長いとの意見も複数出された。その理由としては、日本の農業の発展過程に関する講義等複数の講義で内容が重複しているものも見られ、また、本研修内容に合致していないものも若干含まれていたことを挙げている。

2) 研修の実施方法について

インドネシア同様、講義が多く、また長いとの意見が多数出された。さらに、講義の実施方法について、全体的に講師からの一方的な知識提供型で実施されるものが多いことから、ディスカッション、ロールプレイの導入、または、スライドの使用等により視覚的な講義方法の導入等工夫が求められるとの意見も出された。また、現地研修の回数が少なく、また、スケジュールが厳しいとの意見も出された。

3) 研修に加えることが望まれる項目について

- ・生活改善及び普及活動の方法について
- ・農産物の加工方法について
- ・グループの育成及び女性リーダーの育成方法について
- ・女性のための収入創出活動について
- ・家計簿の取りまとめ方について（グループ活動の会計処理に必要となる）

4) 本研修に対する改善点及び提言

講義の実施方法について、ワークショップ、ロールプレイ、問題分析、演習等研修員参加型の方法で実施して欲しいとの意見が出された。また、現地研修において、日本で成功した女性活動グループの現場を見学したいとの意見が出された。

4. 研修実施後のアフターケアに対する要望について

(1) インドネシア

- ・ 帰国研修員間で意見交換をする場を設けて欲しい
- ・ 研修員の帰国後の活動状況を評価する場を設けて欲しい
- ・ 書籍、ビデオ等により本分野の情報を帰国後も入手したい
- ・ 農村女性の起業活動に関する情報を入手したい
- ・ 農村開発及び農業ビジネスに関する印刷物を入手したい

(2) マレーシア

- ・ 農村女性の活動に関する情報を入手したい
- ・ 本分野の新たな知識を入手する場を設けて欲しい
- ・ プログラムの作成、また、グループ活動の支援を目的とする日本人専門家を派遣して欲しい
- ・ 農産物の加工、手工芸品のデザイン、包装及びその用途についてアドバイスが欲しい

XII. 本コースの改善点について

従来、本コースの研修内容は、各地域において実際に農村女性を指導する立場にある人、すなわち、日本における生活普及員のような人々を対象に、本研修を通じ、現在抱えている課題の明確化、これら課題の解決に向けての年間の普及指導計画、1ヵ月の普及指導計画、1回の農村女性グループの会合の指導計画等がたてられるようになるようカリキュラムが組まれていた。しかしながら、本調査の結果、これまで対象としていた人々の多くが本コースの資格要件にある十分な語学力を有していないことが確認され、本研修に参加しても十分な研修の成果が期待できないことが分かった。また、現地では、主にトップダウン方式で活動が実施されていることから、本コースで対象としている人々が研修の成果を生かし自分の裁量で活動を行うことは困難であることも分かった。

したがって、これらの調査結果より、本コースの場合、直接農村女性の活動に携わっている人々を対象とするより、むしろ彼等を指導する地位にある人々を対象としたほうがより自国における研修の波及効果は大きく、本分野の活動を推進していく上ではより有効であろうとの感想をもった。

また、帰国研修員に対するアンケート調査の結果、研修内容が初歩的であるとの指摘も見受けられたことから、これら要望に応え、ジェンダー及びWIDに関する研修の充実等やや従来のものより専門的な研修も盛り込むこととした。

その他、通訳率が高いこと、講義の実施方法が一般的に講師からの知識提供型で実施されていること等多くの研修員より指摘を受けた点についても改善を試みた。

以上の点を踏まえ、本コース関係者の間で研修内容の検討を行い、来年度は次のとおり研修内容に改善を加えることとなった。来年度の本コースの研修内容の大課題（案）は次のとおりである。

1. 日本の農業の現状と農業施策について
2. 農業・農村生活の課題と地域での取り組み
3. 日本における女性対策
4. 日本における高齢者対策
5. 課題研究
6. 人材育成
7. 農家生活水準向上のための農村女性の能力開発

各大課題（案）の詳細については次のとおりである。

1. 日本の農業の現状と農業施策について

本課題では、主に、

- ・農林水産省の行政組織
- ・農政の主要課題
- ・普及事業の仕組と生活関係の普及における施策
- ・農村生活研究の概要、農業の歴史的視点からの農家生活の発展過程
- ・農協の組織と役割

などについて触れることとし、来年度は数多くの行政官の参加も見込まれることから行政的な内容の充実を図った。

また、研修の実施方法は、講義及び現地研修による対応を予定しており、講義については可能な限り英語にて行うこととしたい。

2. 農業・農村生活の課題と地域での取り組み

本課題では、

- ・健康的な食生活指針と食生活改善
- ・農村女性を核とした地域活性化事例研究
- ・農作業及び生活環境の改善

について取り扱う。本課題では、日本における農村女性の起業活動から、収入創出活動のための商品化のための知識・技術の提供等事例研究が中心となり、これらを基に各国にて応用できる事柄を相互に検討することとなる。

主な研修実施方法は、現地研修、ホームステイ、ワークショップを通じて行う予定である。

3. 日本における女性対策

本課題では

- ・農山漁村の女性の現状と女性対策
- ・日本のODAにおけるWID配慮とWIDプロジェクト
- ・ジェンダー分析手法
- ・PCM手法

について取り扱う。来年度より、新たに、日本における女性対策の現状について研修内容に加えることとした。また、今回の調査の結果、途上国においてWID及びジェンダーに関する知識が急速に求められつつあることが確認されたため、近年女性問題を考える上で、世界的に用いられているジェンダー分析を新たに加えることとし、さらにPCM手法を紹介することによりプロジェクトの運営・管理の

手法についても学べるカリキュラムとした。

主な研修実施方法は、講義、ワークショップ及び現地での分析実習を予定している。

4. 日本における高齢者対策

農山漁村の高齢化対策と主要施策について行政的な面から紹介する。

研修の実施方法は講義により行う。

5. 課題研究

本課題では

- ・カントリーレポートの発表
- ・各国の課題と解決方策の組み立て

について主に行う。カントリーレポートの発表を通じて各国の農村女性が置かれている現状について情報交換を行う。また、各国の抱える問題を明確化し、問題解決に向け実用的な解決方策を検討する。

研修実施方法は、研修員による発表の際に本分野の研究者等有識者にも出席を依頼し、コメンテーターとして助言を求めることとする予定。

6. 人材育成

本課題では、

- ・普及員の育成・研修
- ・グループ育成の手法
- ・グループリーダーの育成
- ・集団指導の進め方
- ・組織化支援

について紹介することとする。本調査を通じ、人材の育成方法に関する要望がだされたことから、今回、新たに「普及員の育成・研修」「組織化支援」について研修に加えることとした。「組織化支援」については、農山漁村における女性の組織活動について、主に現地研修を通じ、組織による活動内容の違い等を理解し、技術研修を含め、自国において広く応用できる内容とする予定である。

7. 農家生活水準向上のための農村女性の能力開発

本課題では

- ・生活設計の基本的な考え方
- ・家計簿記帳
- ・日本の家族計画の推進方法
- ・家庭でできる農産物加工の要点

について紹介する。本課題は従来の内容を継承したものであるが、講義による研修を減らし、ワークショップ、ホームステイを通じ、より理解が深められるよう実施方法の改善を予定している。

「農家生活水準向上女性指導者コース」研修内容検討(案)

研修項目 (8年度実施)	研修項目 (改訂案)	研修項目 (改訂案)
<p>1 日本での農家生活水準向上の要点と農村婦人の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 日本での農家生活水準向上の発展過程 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本での農家の発展過程と農家生活の変化 ・ 農地改革 ・ 農協の役割 ・ 日本での農家と農家改良普及センターの役割及び農家 ② 普及事業(生活)の研究 ③ 農家生活の変化とその適性技術の発展 ④ 農家生活水準向上の基本的考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の生活水準を向上させるための基本的な要点 ・ 生活設計の基本的な考え方、必要生活資源の見積り方、 ・ 実行簿記帳 ・ 日本での生活設計の推進方法 <p>2 人材育成・課題研究</p> <p>(1) 参加各国の農家生活と資源の活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ① カントリレポートの発表 ② 相互検討と各国情報の補足 ③ 課題の明確化と改善プログラムの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題整理のためのカード整理法の手法 ・ 課題に基づき改善計画を作成する ・ 研修員立案の改善プログラムの発表、質疑応答、 <p>(2) 農村婦人リーダー育成と指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ジェンダー視点からみたWIDの現状と将来展望 <ul style="list-style-type: none"> ・ ジェンダー分析の世界的傾向 ・ ジェンダー分析からみた農村女性の役割と状況の展望 ・ 国際的にみた農村婦人問題と日本の海外援助におけるWIDプログラム ② 婦人リーダー育成の手法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育的方法とは何にか、原理を理解する ・ 教育的普及方法と活動方式 ・ 婦人リーダー育成の手法(グループ診断を含む) ③ 指導計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 婦人リーダー育成を中心とした課題計画に基づく指導計画の作成 ④ 農村婦人の集団指導の進め方 ⑤ 日本での農村婦人組織とその活動 	<p>6. 5 8</p> <p>1 日本での農家生活水準向上の要点と農村婦人の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 農林水産省の組織、都道府県、市町村との連携 ② 農政の主要課題と各都府県の取り組みの概要 ③ 普及事業のしくみと生活関係普及活動の概要 ④ 農村生活研究の概要 ⑤ 日本での農家と農家生活の発展過程 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農地改革 ・ 普及の取組み ・ 農村整備事業 ・ 農協の組織と活動 ・ 地域における農協の役割と活動 <p>2 農家生活水準向上の課題と地域での取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 建設的な生活設計と食生活改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的計画 ・ 目標計画の立案 ② 農村女性を核とした地域活性化事例研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域支援体制の整備 ・ 地域発展の推進 ・ 雇われ職につく取り組み ・ 農村女性による起業活動 ・ 農作業及び生活環境の改善 ・ 農村環境点検の手法、地域ビジョンづくりの取組み ・ 農作業に関する労働衛生(農家の安全使用含む) <p>3 日本における女性対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 岡山漁村の女性の現状と女性対策 ② 日本でのODAにおけるWID配慮とWIDプログラム ③ ジェンダー分析手法 ④ P.C.M.手法 <p>4 日本における高齢化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡山漁村の高齢化対策と主要施策 <p>5 課題研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ① カントリレポートの発表 ② 各団体の課題と解決方策の組み立て <p>6 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 普及員の育成、研修 ② グループ育成の手法 ③ グループリーダーの育成 ④ 集団指導の進め方 ⑤ 集団化支援 	<p>8 日</p> <p>講義 // 現地研修 講義</p> <p>講義、現地研修</p> <p>現地研修 ホームステイ 現地研修</p> <p>講義、ワークショップ</p> <p>講義 // ワークショップ</p> <p>講義</p> <p>発表、ワークショップ、発表</p> <p>講義 // // 見学</p>

17.5	<p>3. 地域農産物活用等の技術</p> <p>(1) 地域に既存する農産物等の活用技術</p> <p>① 身近な生産物を活用した食生活改善 ・ 健康的な食生活、食文化を重視した食改善のための総合的な知識 ・ 視察と対策、ポスター制作</p> <p>② 家庭でできる農産物加工の要点</p> <p>③ 地域農産物活用による収入創出活動の要点</p> <p>(2) 農作業及び生活環境の改善技術</p> <p>① 生活環境の衛生管理 ・ 農家・農村の居住環境の課題と対策 ・ 集落環境の点検の手法</p> <p>② 農作業に関する労働衛生 ・ 作業安全のための身仕度等の要点 ・ 農作業に起因する健康障害と農作業改善対策</p>	4. 5	<p>・ J A 女性活動 ・ 農協婦人部 ・ 農協婦人部 ・ 生活改善グループ</p> <p>7 農家生活水準向上のための農村女性の能力開発</p> <p>① 生活設計の基本的な考え方 ② 農村構成員 ③ 日本の家族構成員の推進方法 ④ 家庭でできる農産物加工の要点</p>	5	<p>・ 日本研究 ・ プリーヒイニング、ジェネラルオリエンテーシ ・ ヨン、他</p> <p>計</p>
5	<p>(3) 農村婦人による地域資源の整備・発掘と活用活動のすすめ方</p> <p>① 農村女性による特産物づくりの特徴とその実際</p> <p>② 自給菜園づくりと豊富な加工道具による手づくり加工の実際 ・ 自給菜園と自給菜園、菜園コンクールにの実際</p> <p>③ 農家生活改善の実際</p> <p>④ 加工施設利用による共同加工の実際 ・ 共同加工を推進するための方法</p> <p>⑤ 商品化を目的とした小規模加工の実際</p> <p>⑥ 地域内農産物の生産・流通・加工の組織化と農産物の集荷販売の実際</p> <p>⑦ 地域資源活用活動における農協婦人組織等の役割</p> <p>⑧ 農村の居住環境改善の実際</p>	9	<p>5 日本研究 9 プリーヒイニング、ジェネラルオリエンテーシ ヨン、他</p> <p>計</p>	5 5 日	<p>5 日本研究 9 プリーヒイニング、ジェネラルオリエンテーシ ヨン、他</p> <p>計</p>

XII. 団長所見

今回の現地調査では、帰国研修員より、本コースに対する要望として農村女性の収入創出活動に関する事項が多数あげられた。今回、現地滞在時に複数の農村女性グループの活動現場を訪問したが、これらはすべて収入の創出を目的とするものであった。彼女らの活動内容は、スナック菓子等の製造、縫製、造花の作成等様々であったが、これらの販売による収入が農村女性の貴重な収入源となっており、彼女らの生活費の足しになっていることは理解できた。

次いで、帰国研修員より、女性グループの育成、リーダーの育成方法に関する研修について要望が多くあげられた。しかしながら、帰国研修員の期待は収入創出を効果的に進めるための手段としての女性グループの育成であり、極言すれば、グループ活動=収入創出活動といってもいい。

日本の場合、かつて生活改良普及員はグループ育成に熱心に取り組んできた。その成果として1年に1回全国的な集まりを持ち、グループ活動の成果を持ち寄り実績発表を行ってきた。その際、全国からの普及員、グループ員が集まり、活動内容を発表・交換しあい、互いに刺激を受けてより個々のグループ活動が深まっていった。グループの運営についても民主的に行われ、リーダーをグループの全員が担当するようにして人前で話すことができなかつた女性達が堂々と自分の意見を発表できるようになるなど人間的な成長もグループによって培われた。

ただし、日本のグループ活動の内容は収入を得るための活動ではなかつた。農山漁村にあって身近な生活問題を共通目標として、グループで問題解決を図る活動であり、例えば1950年代のグループ活動は”貧しさからの脱出”であり、カマド改善による室内の煙害対策、動物性蛋白質を補うための料理講習会、農繁期の食改善のための集団給食等々課題は山積していた。これらの課題は経済が向上すれば改善される問題ではなく、生活の質を向上させるものであり、収入に結びつくものではなかつた。

今回の調査において農村女性達のグループ活動を見て感じたことは、指導者は彼女たちの基本的な生活水準をどのレベルにおいているのか、そして、家族が健康で生活するために最低必要となる基本的な目標値を設定しているのか、

”貧しいから収入を”という短絡的な発想ではなく、収入を得るための活動の以前に、まず、彼女たちの生活をしっかり把握し、身近な生活問題の解決が先決ではないだろうか。

指導者は生活目標を踏まえた上で農村生活改善事項として優先順位は何を一番とするのか、その上で収入が必要なものは何か、そのためにどの程度収入が必要なのか、そして、収入を得るために何をすべきかによって「収入創出活動」

が課題として挙がってくるのではないだろうか。

指導者はグループが自ら改善しようという意欲と自主性を尊重しつつ側面からの援助が必要であろう。そして、指導者の資質の向上がグループ育成の今後の課題であろう。

多くの農村女性は育児、家族の健康管理、農作業、地域におけるコミュニティ活動等とすでに多くの役割を担っており、さらに、副収入を得る活動に携わることとなると農村女性はより過剰な労働を強いられることとなる。女性達の収入創出活動が単なる家計費の応急処置ではなく、将来、彼女たちの収入として認められるように、男性の協力を得て農村女性達の自立と意識の向上につながる基本的なビジョンを持つことが大切ではないかとの感想を持った。今後、これらの事柄についても本コースを通じ、知識・情報等を提供していきたいと考えている。

BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS OF THE TRAINING COURSE IN WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT

I. Introduction

It is our great pleasure to be given the opportunity to visit Indonesia as members of the technical follow-up team, comprising of three (3) members mentioned below, and to have a warm reunion with the ex-participants of the group training course on Women Leaders of Farm Household Development.

As part of the technical follow-up programme for Japan International Cooperation Agency (JICA), the three member team was dispatched to Indonesia for the first time since the initiation of the training programme in 1989.

Before leaving Indonesia, the Team hereby intend to submit a short Summary Report on its seven (7) days follow-up activities since December 2, 1996, for the reference of respective government agencies in Indonesia.

The team members would like to express their deepest gratitude for the warm welcome and kind cooperation extended to them during the whole period of stay in Indonesia.

This course has been offered since 1989 and we have accepted 96 participants from 25 different countries. Among them, 9 participants are from Indonesia.

The following is a brief report of our visit.

II. Objectives of the Follow-up Team

The Follow-up Team aimed to evaluate the effect of the training in Japan, to assess the problems and needs in the participants countries as well as to improve JICA's future training programs :

- (1) To measure and evaluate the effectiveness of the course to the ex-participants and to what extent the participants had utilized the experience gained in Japan, and to exchange views and opinions with ex-participants and their supervisors on technical matters in the field of rural life improvement, especially an women's activities in the rural area, so that we can further improve our future programme.

- (2) To investigate and understand the present situations of this country especially in the above-mentioned field, in order to formulate future training according to its needs.

III. The member of the Team

1. Yumiko FURUTA (Team Leader)
Director of the Project Promotion Development,
Rural Women Empowerment and Life Improvement Association
2. Kyoko SATO (Technical Advisor)
Chief of Promotion of Rural Life Improvement Extension Section,
Women and Life Division,
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.
3. Shinjiro AMAMEISHI (Coordinator)
Staff, Second Training Division,
Tsukuba International Centre,
Japan International Cooperation Agency (JICA)

IV. Summarized Schedule

1. December 2 (Mon)
-Arrival in Jakarta
2. December 3 (Tue)
-Visit to JICA Indonesia Office
-Visit to Agency for Agriculture of Education and Training, Ministry of Agriculture and meet ex-participant
3. December 4 (Wed)
-Meeting with ex-participants who belong to Ministry of Agriculture
-Visit to Ministry of Cooperative and Small Enterprises Development
4. December 5 (Thu)
-Observation of women related activities for agricultural extension (P4K)

5. December 6 (Fri)

- Visit to Ministry of Roll of Women
- Report to Embassy of Japan
- Report to JICA Indonesia Office

6. December 7 (Sat)

- Making documents

7. December 8 (Sun)

- Departure from Indonesia

V. Summary of Follow-up Visit

As a result of the follow-up visit, our team wishes to share the following comments with you :

- (1) We conducted a survey based on the interview and questionnaire completed by ex-participants. Generally we have confirmed that they are satisfied with the contents of this course. They are trying to extend the knowledge and skills obtained in Japan through holding seminars for the person concerned such as subject matter specialist or extension worker, and also through publishing the texts and pamphlets.
- (2) The ex-participants suggested that the lectures are too many and too long in the current programme. And it is not suitable for participants in order to take lectures with positive participation because the way of lectures was often one way from lectures to participants. Through these suggestions, we will try to change the way of lectures to include role playing and discussion, so that the participants are able to take lectures positively.
- (3) The ex-participants also suggested that the curriculum should include programme on processing and packing of agricultural products. Generally the purposes of packing of agricultural products are the preservation and the storage, or the enhancement of their commercial value. Through this visit, we confirmed both of them are highly demanded in Indonesia. At this time we had a chance to visit and interview with women's groups which are actually handling with processing agricultural products. We confirmed that the use of packing for agricultural products is one of the keys in deciding their prices and it is important for women in rural area to learn how to pack them. We therefore reached a conclusion that the training in terms of the concept and the importance of packing should be added to the curriculum.

- (4) The needs to get knowledge in terms of women in development and gender has been increasing rapidly in Indonesia. To get these knowledge is necessary for the person engaged in agricultural development in order to train farmer's group, especially when it is comprised of women. Even now we provide the basic information in this field, we will consider to add more practical knowledge in the next training curriculum.
- (5) We considered that the participants should be the person engaged in the execution of instruction and training in the field of life improvement in rural area, especially enhancement of roll of women in district level. We now realize that most of the person mentioned above do not have abilities in terms of English required for the training, and the person engaged in planning projects, and management of training for farmer's group in national and provincial level would be able to extend the experience obtained in Japan better. We should discuss the qualification of applicants of this course, so that a lot of person in national and provincial level can participate in the course.

The Team wishes to express a deepest gratitude for the hospitality and kind cooperation of all the people we met during the period of stay in Indonesia.

古田 由美子

Yumiko FURUTA

Leader of Ex-participants Follow-up Team
Women Leaders of Farm Household Development Course
Japan International Cooperation Agency

BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS OF THE TRAINING COURSE IN WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT

I. Introduction

It is our great pleasure to be given the opportunity to visit Malaysia as members of the technical follow-up team, comprising of three (3) members mentioned below, and to have a warm reunion with the ex-participants of the group training course on Women Leaders of Farm Household Development.

As part of the technical follow-up programme for Japan International Cooperation Agency (JICA), the three member team was dispatched to Malaysia for the first time since the initiation of the training programme in 1989.

Before leaving Malaysia, the Team hereby intend to submit a short Summary Report on its six (6) days follow-up activities since December 8, 1996, for the reference of respective government agencies in Malaysia.

The team members would like to express their deepest gratitude for the warm welcome and kind cooperation extended to them during the whole period of stay in Malaysia.

This course has been offered since 1989 and to date, the total number of participants accepted for this training course is 96 from 25 different countries. Among them, 7 participants are from Malaysia.

The following is a brief report of our visit.

II. Objectives of the Follow-up Team

The Follow-up Team aimed to evaluate the effect of the training in Japan, to assess the problems and needs in the participants countries as well as to improve JICA's future training programs :

- (1) To measure and evaluate the effectiveness of the course to the ex-participants and to what extent the participants had utilized the experience gained in Japan, and to exchange views and opinions with ex-participants and their supervisors on technical matters in the field of rural life improvement, especially an women's activities in the rural area, so that we can further improve our future programme.

- (2) To investigate and understand the present situations of this countries especially in the above-mentioned field, in order to formulate future training according to its needs.

III. The member of the Team

1. Yumiko FURUTA (Team Leader)
Director of the Project Promotion Development,
Rural Women Empowerment and Life Improvement Association
2. Kyoko SATO (Technical Advisor)
Chief of Promotion of Rural Life Improvement Extension Section,
Women and Life Division,
Ministry on Agriculture, Forestry and Fisheries.
3. Shinjiro AMAMEISHI (Coordinator)
Staff, Second Training Division,
Tsukuba International Centre,
Japan International Cooperation Agency (JICA)

IV. Summarized Schedule

1. December 8 (Sun)
-Arrival in Kuala Lumpur
2. December 9 (Mon)
-Visit to the embassy of Japan
-Visit to JICA Malaysia Office
-Visit to Community Development Division,
Ministry of Rural Development (KEMAS)
-Observation to KEMAS training facilities and and women related activities
3. December 10 (Tue)
-Visit to Farmers Development Branch, Department of Agriculture,
Ministry of Agriculture
-Visit to women related activities in food processing and observation to
entrepreneur development training

4. December 11 (Wed)

-Visit to Rubber Industry Smallholders Development (RISDA), meet with ex-participant and visit to RISDA Women Small Holder Group activities

5. December 12 (Thu)

-Meet with ex-participants

-Visit to Ministry of National Unity and Social Development

6. December 13 (Fri)

-Leave for Japan

V. Summary of Follow-up Visit

As a result of the follow-up visit, our team wishes to share with you the following comments:

- (1) We conducted a survey based on the interview and questionnaire completed by ex-participants. Generally we have confirmed that they are satisfied with the contents of this course. And they are trying to impact the knowledge and skills learned in Japan through giving advises to women's group in rural area or contributing articles on their experiences in Japan on bulletin.
- (2) We received 7 participants from 5 authorities, Ministry of Agriculture, Ministry of Rural Development, Ministry of National Unity and Community Development, Rubber Industry Smallholders Development and Federal Land Development Authority. In the training, we provide participants with knowledges and skills related to the improvement of the farm household lifestyle, and also impact knowledges and skills necessary for women in rural area to develop their abilities in utilizing local resources. We emphasized that the participants should be the person in charge of enhancing the standard of living in rural area, and in supporting the activities of rural women's group.
- (3) We received request from the ex-participants to improve the training lectures, particularly in delivering lectures straight in English without interpretation. This will enable the participants to fully understand the contents of this training. It will be discussed with the people concerned.

(4) We received requests to include processing of agricultural products and handicraft in the curriculum of the training from the ex-participants. We extended the training to 25 countries and it is difficult for us to tailor to meet all of the needs of every participants because of each country's situation is varied. Therefore, we reached a conclusion that the concept and the meaning of income generating activities should be emphasized in this course. We will enhance participants with practical knowledges and highlight the significance of the income generating activities.

The other aspect to be stressed on is group activities, the financial management in group activities and building up women leaders. These knowledges are necessary for women's group to implement the income generating activities successfully. We will take into consideration to enhance the curriculum of the next course.

(5) Income generating activities by women's group in rural area in Malaysia is advanced comparatively. Further we hope that women's group in rural area will carry out activities not only for income generation but also for the development and progress of the community.

The Team wishes to express a deepest gratitude for the hospitality and kind cooperation of all the people we met during the period of stay in Malaysia.

古田由美子

Yumiko FURUTA

Leader of Ex-participants Follow-up Team
Women Leaders of Farm Household Development Course
Japan International Cooperation Agency

FOLLOW-UP SURVEY FOR EX-PARTICIPANTS OF TRAINING COURSE
TSUKUBA INTERNATIONAL CENTER (TBIC)
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

QUESTIONNAIRE FOR ORGANIZATION CONCERNED ON
GROUP TRAINING COURSE IN
WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT

I. ORGANIZATION OUTLINE

(1) Name, type of Organization and size concerned with rural life improvement

1) Name of Organization:

Address:

(Street and Number)

(City)

(State/Country)

(Postal Code)

(Telephone)

(Facsimile)

2) How many staffs does your organization have?

Number of staffs:

1. Total _____

2. Research/Technical _____

3. Administration _____

(2) Activities, responsibilities and organization chart

1) What are the main activities and responsibilities of your organization?

* If you have your organization chart, please attach it.

(3) Present activities for rural life improvement

What are the policy and strategies for rural life improvement in your countries ?
(please attach the copies of reports/charts on the information mentioned below)

1) laws and regulations concerned (please attach the copies of them)

2) Organization charts of the implementing organizations, Number of staff members, and the budget.

3) Main programmes for improving rural life.

- 4) Statistical data and reports; on the present situation of rural life.
(i.e. nutrition, school entry rate, working hours)
- 5) The implementation of training courses on rural life improvement.
(i.e. curriculum, text)
- 6) The research and technical development on rural life improvement
(i.e. lists of research institutes and research theme)
- 7) Type of extension staff members who directly contact with farmers.
 - ① Agricultural Extension Advisers
 - ② Staffs of universities
 - ③ Public health nurses
 - ④ Others (please specify : _____)

(4) About the implementation system of women's measures (The organization chart should be attached).

1) What is the national body in charge ?

2) What is the main problem ?

3) Main program

II. APPLICATION AND NOMINATION OF CANDIDATE TO JICA TRAINING COURSE

(1) Procedure of selection

1) Please let us know the procedure of candidate nomination

- () The organization advertise for candidate and judge from his/her aptitude and qualification
- () After judging from staff's attitude and qualification, the origination order the candidate to go to Japan
- () Others (Please specify the procedure below).

2) How long does it take you to choose the final candidate(s) for the WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE?

- () within one month
- () more than one month

If it takes more than one month, how many months? () months

3) What are the standards of candidate selection for the **WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE**? Please choose any out of the following.

- () present post of candidate
 - () educational background
 - () intention
 - () service record
 - () interchange between the related institute
 - () others (Please specify below.)
-
-

(2) **General Information (G.I.):** brochure of the course from JICA

1) Did you get enough information from the "G.I." for selecting final candidate(s), i.e., prospective participant(s) in the training course? Should any other piece of information be added to the "G.I."?

- () Yes, it is enough. () No, it is not enough.

In cases of "No", please specify the information to be added.

2) Do you usually receive "G.I." well in advance?

- () Yes () No, it arrives late.

(3) **Number of prospective applicants/candidates**

1) How many applicants/candidates do you have every year for **WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE**?

2) How many staffs in your organization do you consider are adequate for **WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE** in the future?

III. EVALUATION OF THE TRAINING PROGRAM

(1) **The Number of the Ex-Participants who have been transferred to another posts after the participation of WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE.**

(2) **Present posts and duties of the Ex-Participants.**

(4) The Number of the Ex-Participants who are now concerning themselves with the planning, drafting, extension, training, or research on Farm Household Improvement.

(5) Results/achievements of the training

Have you found any good results/achievements in your staff after participation of WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE at the point of the following?
Please specify if available.

a) the method of researching

b) the knowledge/technique(s)

c) Others

(6) Applicability of the knowledge/technique(s) obtained through WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE

1) Are your ex-participants applying the knowledge/technique(s) obtained through the training in Japan to their works back at home?

() a lot, () to some extent, () no application

2) If there are some examples of good application, please specify them.

3) In case of "no application", why do you think the reason?

4) Do you try to assign ex-participants to responsibilities/posts where they can make good use of the knowledge/technique(s) obtained through WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE ?

() Yes, () No

5) In case of "Yes", please give an example to illustrate specifically how?

(7) Expectations for future JICA programs

1) Would you like to continue sending your staff to participate in WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE Training Course

() Yes, () No

2) In case of "Yes", what/how intense are your expectations?

(8) Compare with other programs

How do you evaluate the WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE ?

- level of content: () high, () low, () neither
- length: () long, () short, () neither
- quantification: () difficult () easy, () neither
- number of participants () many, () not many, () neither

IV. IMPROVEMENT OF FUTURE WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE

(1) Knowledge/technique(s) your organization hopes to obtain from WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE

In future, what knowledge/technique(s) would you expect your training participants to acquire from the future WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE.

(2) Improvements of WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE

If you have any opinions/comments regarding the improvements of future courses, please specify as to the following.

a) Duration of program

b) Curriculums

c) Contents of training

d) Technique levels

e) Others

V. JICA AFTER SERVICES

JICA conducts after care services for ex-participants of WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE. If you (as an organization) have any opinions/requests concerning this services. Please specify here.

VI. REQUEST TO JICA

If you have any request to JICA, please specify here.

* About the person filled in the questionnaire

Date: _____

Position: _____

Printed name: _____

Signature _____

Thank you very much for your kind cooperation.

FOLLOW-UP SURVEY FOR EX-PARTICIPANTS OF TRAINING COURSE
TSUKUBA INTERNATIONAL CENTER (TBIC)
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

QUESTIONNAIRE FOR EX-PARTICIPANT ON
GROUP TRAINING COURSE IN
WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT

I. PERSONAL DATA

(1) Name in full

Ms., Mr. _____ Age: _____

(2) Home address

(3) Year of your participation on WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE

19_____

II. YOUR PRESENT ORGANIZATION OUTLINE

(1) Name, type of organization and size

1) Name of your organization

Address:

2) Your present title in your organization

If your title changed after your WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE participation, please describe recent two titles and activities.

Latest Title _____

Name of organization _____

Period from _____ to _____

Activities _____

Previous Title _____

Name of organization _____

Period from _____ to _____

Activities _____

3) How many staffs does your organization have?

Number of staffs _____

(2) Activities, responsibilities and organization chart

What are the main activities of your organization and what are your activities and responsibilities in it?

* If you have the organization chart, please attach it. (if available)

(3) Do you have any connection with planning, drafting, or research on rural life improvement ?

() Yes, () No

If your answer is "Yes", What is your current main problem ?

(4) What is the problems in rural life in your country ?

(5) For the solution of the issues mentioned above (3) and (4)

1) what kind of programs have been implemented ?

2) which organization is implementing the program ?

(6) Do you have any training courses for the farmers or the extension advisers ?

() Yes, () No

If your answer is "yes", What kind of training are they ?

III. EVALUATION OF WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE

(1) After the WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE, have you been trying to share with other staff in your organization the knowledge and techniques obtained from your training?

() Yes, () No

In the case of "Yes", and if possible, please give an example to illustrate specifically how ?

(2) What kind of knowledge or techniques, that you had acquired through the WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE, are you utilizing in your service ?

(3) Did you find any contents in the WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE which are not suitable for the actual circumstances of your countries? If any, please specify.

IV. TRAINING COURSE IMPROVEMENT

(1) Time allocation: WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE as a whole and among each of the programs

1) Overall course duration (Present course: 2 months)

How do you evaluate the whole length. Please choose one.

() Too long, () Fair, () Too short

In case you think it is "Too long:" or "Too short", what do you think is the appropriate length?

() months

The reason why?

2) Time allocation for each programs

Any comment/opinion regarding the length of Orientation, Lectures and Study Trips:

(2) Subject(s) to be added or deleted

*Subject(s) means the contents of curriculums, not specialized training subject.

Training subjects to be added or deleted in the content of the technical circumstances/conditions in your home country:

1) Considering the circumstances/conditions at your home country, what do you think are the training subject(s) to be more emphasized and/or added?

2) If you consider some training subject(s) not needed in the program, what are they?

3) The study trips

What type of sites are preferable for visits? What do you like to see there?

(3) Suggestion for the improvement of future programs

Any other comments/opinions as to the improvement of WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE.

V. JICA AFTER CARE SERVICES

(1) Requests as to WOMEN LEADERS OF FARM HOUSEHOLD DEVELOPMENT COURSE follow-up

1) After being back to your country, have you somehow contacted your training institute in Japan?

() Yes, () No

2) If "Yes" in what situation? Please specify.

3) Please specify any requests as to JICA's follow-up care for ex-participants and its support after the training?

(2) Alumni Association of JICA Ex-participants

1) Are you a member of Alumni Association of JICA Ex-participants?

() Yes, () No

2) If "Yes", what activities do you take part in?

VI. REQUEST TO JICA

(1) Except this training course, what kind of training course do you want to join?

(2) If you have any requests to JICA, please specify here.

Thank you very much for your kind cooperation